

Contents

01 プロジェクト最前線

大気汚染対策のプロジェクトが欧州で活発化 環境センサーベンダーがソリューションを提供

大気汚染による死者が 40 万人を越す欧州で、EU(欧州連合)が主導して、大気汚染対策のプロジェクトがスタートした。デンマーク・コペンハーゲンのリビングラボを活用する実証も始まった。センサー・ソリューションを提供するベンダーが協力している。

02 プロジェクト最前線

パナソニックが開発中の 3 つのスマートタウン “くらし発想”で住民向けサービスを進化

パナソニックが開発中の Fujisawa SST(サスティナブル・スマートタウン)、Tsunashima SST、Suita SST の 3 つのスマートタウンは、「くらし発想の、5 つの分野横断サービスと産官学・住民参加による進化し続けるまちづくり」を掲げているのが特徴だ。

03 注目のニュース

英国で実施された「世界最大」の V2G(Vhicle to Grid)実証結果が発表
独 BMW、中国で EV(電気自動車)向けに 36 万基の充電ステーションを設置
オーストリア Riddle&Code、ブロックチェーンで太陽光発電をトークン化
スマートストリートライティング市場が年平均成長率 23.4%で拡大へ
スマート照明大手のオランダ Signify、英 Telensa を買収、など

04 ニュース解説

アテネ市のスマートシティ化がスタート
ピーチツリーコーナース市が V2X 実証を開始

大気汚染対策のプロジェクトが欧州で活発化 環境センサーベンダーがソリューションを提供

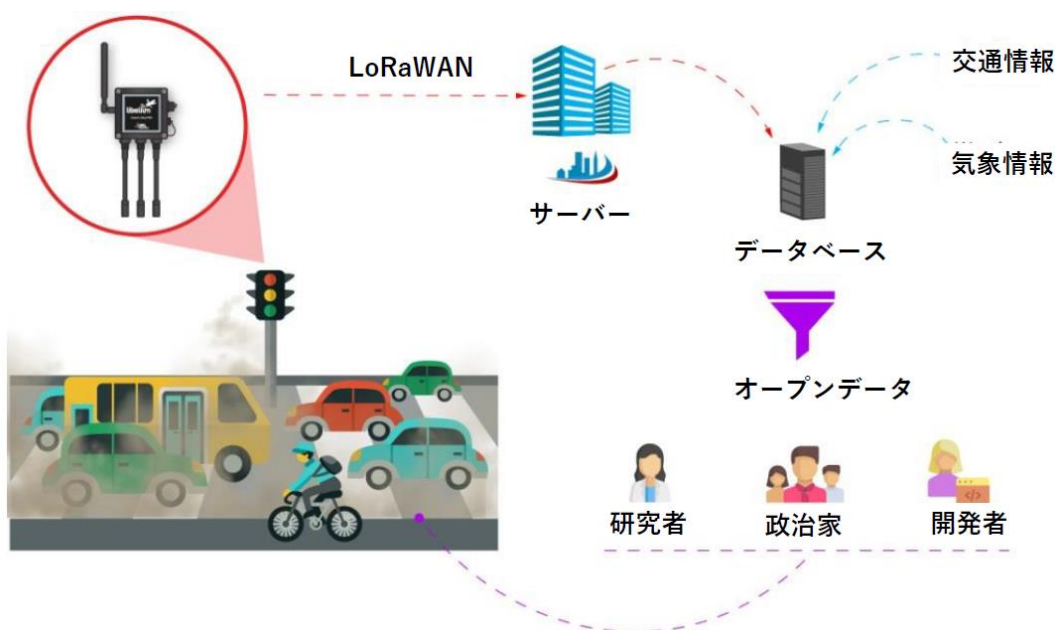
WHO（世界保健機関）によると、大気汚染によって世界中で毎年約 700 万人が死亡していると推定されている。屋外および建物内における空気質の悪化によって、脳卒中、心臓病、慢性閉塞性肺疾患、肺がん、急性呼吸器感染症のリスクが高まる。このため、WHO は各国に大気汚染問題解決の対策を求めている。

欧州でも、大気汚染による死者が年間 40 万人を超していると推定されている、その原因であるモビリティ、家庭用暖房、産業分野からの大気汚染物質の排出量を抑える施策が求められている。そのために、EU（欧州連合）が打ち出した施策の一つが環境センサーによる大気汚染のモニタリング・プロジェクトである。それにより、大気汚染の現状を把握して対策を講じること目的としている。また、

そうしたプロジェクトに環境センサーやセンサー・ネットワークと共にソリューションを提供しているベンダーが登場しており、課題解決に貢献すると期待されている。

EU がプロジェクトを主導、大気汚染を予測

EU が主導する大気汚染対策プロジェクトの 1 つが、2019～2021 年にかけてスペインとイタリアの 6 つの都市（サラゴサ、フィレンツェ、モデナ、リボルノ、サンティアゴデコンポステーラ、ピサ）で進めている大気汚染の予測データを研究者、政治家、開発者や自治体担当者に提供して、特に交通施策を改善するツールとなることを目指したプロジェクト「TRAF AIR (Understanding Traffic Flow to Improve Air Quality)」である（図 1）。



【図 1】「TRAF AIR」プロジェクトにおけるデータの流れ（サンティアゴデコンポステーラのケース）。信号などに設置した環境センサーからの情報と交通データ、天気予報のデータと併せて、大気汚染の予測を行い、オープンデータとして提供し改善に役立てる（出所：Libelium）